Jao ニュース

３８１号　２０２３年８月

発　行　じゃおクラブ
責任者　大澤　輝之
編　集　事務局
ＵＲＬ　https://jaoclub.com/

事務局だより

１．7 月 1 日現在の会員数

湘南	県央	ベイサイド	多摩・田園	計
40	38	31	29	138 名（E グループ会員：125 名）

7 月入会　　青木 輝雄氏（ベイサイド）

２．運営委員会より報告

7 月 23 日（日）にオンライン開催された運営委員会の主な内容は以下の通りでした。詳しくは運営委員会議事録をご覧ください。

1）　第 32 回通常総会を振り返り、改善策を検討しました。

(ア) 総会の開催告知のメール受信やオンライン投票、会費支払いが難しかった会員への対応策について。

⇒今後、高齢化の進展に伴ってこのような事例が増えると予測されます。いくつかの案が提案されましたが、地域じゃおの事情や事務作業の負担増、経費増などを考慮する必要があることから、引き続き、運営委員会にて議論を継続することになりました。

(イ) 第 32 回総会資料作成時の、地域じゃおの原稿締め切りは 4 月 7 日でした。しかし、このスケジュールでは、実質的に地域じゃおは総会を 3 月に開催することになり、苦労が伴いました。改善のために、湘南より、地域じゃおの原稿提出期限を 4 月 20 日頃に延ばせないかとの提案がありました。これは、昨年度から総会議案書と名簿印刷の外部業者依頼をやめたことなどを勘案してのものです。

⇒協議の結果、まだ先の話でもあり、湘南の提案を尊重して引き続き検討することになりました。

2）　今後の「じゃおニュース」の記事について協議しました。

現在、じゃおニュースの「会員だより」は、会員名簿の五十音順で執筆をお願いしています。この五十音順の執筆は 2023 年 11 月で 3 周り目を終えます。これをきっかけに「じゃおニュース」の内容について協議しました。

⇒「活動報告」の充実、「会員だより」を自由投稿に変える、「テーマ」を設けて記事を募集する、など様々な意見がでました。今後、この課題は地域のじゃおニュース担当者を交えて、さらに検討を続けることになりました。

２．次回の運営委員会

日時：　2023 年 9 月 24 日（日）10:00～12:00　オンライン開催

議長：　大澤委員　　書記：　高橋委員

メーリングリスト登録のお知らせ

メールアドレスをお持ちのじゃおクラブ会員は、じゃおクラブのメーリングリストに登録されます。じゃおクラブ内ではメーリングリストに登録された会員を E グループと呼んでおり、じゃおクラブ内の重要なお知らせを会員に一斉にお知らせする際などに使われています。

新規入会された会員には、メーリングリストに登録されたことをお知らせするため、本部会員管理担当から「じゃおクラブのメーリングリスト（E グループ）に登録いたしました」とのメールをお送りしています。メールは、E グループに登録された新規入会の会員が対象で、毎月月末に送付されます。

メーリングリストについて知っておいてほしいこと

メーリングリスト（じゃおメール、じゃお E グループとも呼ばれます）は多くの会員に対して、同時にメールを送付できる便利な仕組みです。しかし、時々「配信エラー」によりメールが届かないことがあります。以下に代表的な原因を記しました。配信エラーをなくすため、会員の皆様のご協力をお願いします。

- メールアドレスの変更や廃止
  プロバイダを変更した、携帯の会社を変更した、転居に伴いメールを変更したなど、最も多いのがこちらです。変更がありましたら、地域じゃおの名簿担当を通じてお知らせくださいますよう、お願いします。

- 迷惑メール設定の変更
  携帯やスマホの迷惑メール対策が影響することがあります。「@googlegroups.com」または「@gmail.com」からのメールを受信できるようにしておいてください。

会員だより

AI が書く通知表の所見

ベイサイド　　増子　寛

7 月 19 日の毎日新聞朝刊の「通知表所見に AI 模索」と題した記事が目についた。40 年近く私立高校の教員生活を送ってきたものとしては、所見を AI に書かせる時代がついに来たかと、愕然とした思いでこの表題を見た。初めは、この曲学阿世の徒め、と構えてみたが、内容的にはそれほど驚くことではなく、内心ほっとして読み終えた。

通知表とは、学期末や学年末に各科目の成績を生徒に伝えるための成績表で、学校ごとに書式が異なるが、その中に「所見」という欄が必ず設けられている。この欄は一般には教科ごとではなく全体の所見なので担任が書く。所見欄の大きさは、高等学校はまだ小さいほうで、中学校、さらに小学校へと次第に大きくなる。その分担当教員の負担は増加する。また、親の期待値も増加していくので、小中を担当する教員の負担が増幅される。もちろん高校教員が生徒をいい加減に見ているわけではなく、生徒との個人面談は常時行われているから、必要があると判断すれば、親も含めてじっくり話をする。だから、所見欄は実際上はあまり必要がなく、特徴的なことがあればそれを書くが、特になければ、針小棒大に書くか、当たり障りの無いように書くか、それを潔しとしなければ空欄のままにしてしまう。小中の場合はそうもいかないようだ。

さてチャット GPT に所見書かせるとはどういうことか。記事によれば、該当生徒の点数や、例えば、「頑張り屋さん」とか「意欲的に勉強している」とかを入力して、返答を見ると、それなりの文章になって帰ってくるといった具合である。教員が入力する言葉を選んでおけば、文体がその教員にとって許容できるものなら、自分で書いたものと大した差はなくなってしまう。そんなことで仕事が軽減されたと思うなら、それもよいことではないだろうか。しかしこれが独り歩きすると、どのように進化（？）するのか予想ができないところが大変怖いところである。そもそも所見欄は必要ないという意見もあるそうで、私もそちらに組したい一人である。

話の筋は逸れるが、チャット GPT は対話を重ねれば重ねるほど、AI が質問者の思考パターンを学習して、質問者の望む答えに近づいてくると言われる。これが AI に権威を与えてはいけない最大の理由だと思う。現在 GIGA スクール構想といって、小学生から高校生まで（大学生は勿論のこと）タブレット端末を一人 1 台配布して、授業に使えという指令が文部科学省から出されている。多くはネットで検索して関連の資料を見るといったことに使っている。先に進んで、仮に問題が与えられたとする。その解答はほとんどの場合検索すればどこかにある。正解にたどり着くだけで〇がもらえるなら、学生はこれを「学習」と勘違いをしないだろうか。本来は正解を導く過程の中に大切なことがたくさん含まれていて、そしてそれらは答えのない問題に立ち向かうときに大変役立つことになる。このような正解検索学習を続けていくと、AI に権威を与えてしまう土壌を作っているような気がしてならない。床屋談義的な（床屋さんに失礼だが）杞憂であってほしいと願うばかりである。

話を戻して、記事の AI に所見、ということが、教員の負担軽減という文脈で語られている。教員の働き方改革をしないと教員になり手がいなくなるという危惧があるほど、教員はブラックな職業である。高中小へ下がるほど雑用（？）が増える。働き方改革などと叫ぶ前に、1 クラスの定員を今の半分（20 名）にすれば、少々ブラックでも教員の仕事が魅力のあるものに変わっていくのではないかと思うがいかがだろうか。生徒数が減少していく今、教員数を減らさずに維持すれば、かなり実現性が高いと思う。

『腰痛のリハビリ奮闘記』

湘南　増田　勝男

私は、昨年 2022 年の年明け頃…家族から「最近歩くのが遅くなっている」「何だか歩き方が変な気がするけど…」と言われていた。

確かに駅までの歩行時間が遅くなり、想定時間に到着出来ないことが多くなってきた。それほど長い距離でないのに、途中で腰をかばいながら道路標識などに摑まって休みたくなる。自分の歩き方？を忘れたかのようにギクシャクして脚の運び方も可笑しい、腰の何処だかはっきりしないが痛みも出てきた。

妻に何度も言われ、整形外科で診て貰うことにした。レントゲンや MRI などによる診断は『腰椎椎間板ヘルニア＆脊柱管狭窄症！』…医者からは「何でもっと早く来ないの、これ以上遅くなっていたら手遅れになるところ、すぐ入院・手術！」…と手厳しい叱責を受ける。さらに、入院直前には自宅で思うように脚が上がらず、勝手口でもつれ強かに腰を打ち、脚の付け根の動きまでが可笑しい状態になってしまった。そんな訳で予約を前倒して 9 月 28 日に入院・手術。

最近の手術は背中や腰の切開ではなく、進歩した内視鏡手術で手術も術後も随分と楽になった。お陰でヘルニア切除手術の翌日には、それまでの腰痛の痛みを感じなくなった。

しかし、倒れて腰を打った為か尾骶骨や左足の筋が痛くなってきた。右足は脚の付け根が可笑しい。両足を運ぶバランスに違和感があり、びっこをひいている。

手術前後は車椅子や歩行器も用意されたが、医師には早く手すり歩きや杖などに慣れて歩行訓練をするよう指示された。ほぼ 10 日で退院したが、病院でのリハビリは理学療法士によるマッサージなどが主で、筋力は落ちていく一方であった。

退院後のリハビリのためすぐに介護保険の申請、要支援 2 との結果。早々に助成金を申請し、家の階段や廊下に手すりを付け敷居の段差解消も進めた。この年、自宅の防音工事に併せ家のリフォームを行なっていたのだが、今年の年明けまでかかり本格的なリハビリ（デイケアサービス）に通えない状態だった。この間の身体の不自由・不具合は厳しく、勿論じゃお活動についてもご迷惑を掛けていた。

そして、やっとデイケアリハビリ（以下デイリハ）に通うべくケアマネさんと話し合い、数カ所の施設見学の後、先ずは 3 月より週 1 回半日通所、その後 5 月から週 2 回のデイリハ通いが続いている。送迎付きの通いであるが、これほどまでに我が家の近辺に多数の施設があり、多くの方々が利用しているとは思いもしなかった。ご近所の家の前に送迎車がそこかしこ…。

それが私には励みとなり、楽しく？なってきた。全身の体操、ジム機器での筋力運動、今ひとつ弱い体幹の強化。周囲には私より年上の 80・90 歳の方々が多く。声掛けしてくれ、それぞれのデイケアにくるに至った経緯や家族・友人の話を問わず語りして来る。多くは脳梗塞や腰痛、あるいは大怪我の後遺症…などであるが、こんなにも多いのかと驚いた。そんな中、私はリハビリを頑張ってしまう。この頃は、「増田さん張り切り過ぎでは？疲れない？」「このままでは。介護度が見直されて週 1 回に減るのでは？」…とはいえ腰痛や脚の動きが完治とはいえない状態であり、今後も医師の判断や指導が気になる。やはり歳をとっても、趣味活動や旅行に出掛け、子や孫の成長を見ていきたい…。いろいろの思いが頭を巡る。

今後もリハビリを続けながら、健康づくりや不具合克服をしていくようだ…歳相応に。

外国語は楽しい

ベイサイド　宮岡　栄一

私は小学生の頃から外国憧れ少年でした。当時（昭和 30 年代)、テレビはアメリカのホームドラマ全盛期（うちのママは世界一、パパは何でも知っている、ビーバーちゃん、名犬ラッシー等々）でテレビを通じて垣間見るアメリカの豊かさ、かっこよさに強い憧れを抱き、英語を勉強したいと思うようになりました。大学入学以降はスペイン語、フランス語等々他の外国語にも興味が広がりましたが今回は私の英語学習歴と学習することの楽しさに触れてみたいと思います。

中学生の頃は「オールディーズ」のレコードを聞きながら意味はよくわかりませんでしたが英語の歌詞を見て歌うのが好きでした。高校までは英語の歌を歌うことと受験勉強により英語の基礎が出来たような気がします。大学時代は外部の英語サークルで外国人との会話を楽しみました。

大学卒業後勤務した会社での仕事は海外関係が主で国内でも海外勤務地（米国、ドイツ、ベルギー）でも英語が分からないと仕事にならないので仕事を通して英語力は少しづつ向上したと思います。

定年後は英語を話す機会は殆どありませんので、大学の OB 会横浜支部で 8 年前に英語のグループを有志で立ち上げ月一回例会を開催し、様々な話題について話し合う（おしゃべりする）活動をしています。また、OB 会以外でも同様の活動をしています。こちらは上智大学の講師（スコットランドの素敵な女性）をアドバイサーに招いています。メンバーはリタイアーしたサラリーマンの他、高校の教師、通訳案内士、専業主婦、小学校の用務員、精神科医等様々なバックグラウンドを持った方々です。例会後の飲み会では例会での議論の続きやその他の話題（勿論日本語で）で盛り上がります。これが楽しくて活動しています。コロナで中断しましたがコロナに気を付けながら再開しました。

2012 年から 2016 年迄 4 年間、本郷台にあった神奈川県立国際言語文化アカデミア（現在は残念ながら廃止）でユダヤ系アメリカ人作家の小説翻訳講座を受講しました。英語を通して未知の世界を垣間見るのが目的でした。授業は毎週あり、担当箇所を翻訳し事前に提出して授業でそれを叩き台にして議論します。これは結構きつかったですが、それまで縁が無かったユダヤ世界の一端にふれることが出来ました。遥か昔の大学のゼミに戻ったような雰囲気で、とても楽しく充実した日々でした。

外国語の学習は継続的な地道な努力が必要で直ぐに成果が出るものではありませんが（何をするにもそうでしょうが)、多少苦しくてもコツコツ勉強を続け、ある程度出来るようになれば直接外国人と話したり、翻訳ではなく原典に触れることも出来ます。外国語を媒介として多様な文化に触れて自分の世界が広がることが外国語を学ぶことの大きな喜びであり、楽しみでもあります。もしじゃおにも英語のサークルが欲しいと思う方がおられましたら是非ご連絡ください。一緒に立ち上げましょう。

ところで、外国語学習は認知症予防に役立つようです。ルクセンブルグのある研究機関の認知症と外国語の関係に関する調査によれば複数言語を話す人は全く外国語を話さない人より認知症になるリスクがかなり低いそうです。多くの言語を話す人ほど認知能力が高いそうです。今からでも遅くありません。手遅れになる前に外国語の勉強を始めましょう。

じゃお湘南

農園日記　―開設当時のじゃお農園 その①―

じゃお農園の皆さんから、よく開設当時のじゃお農園の様子について聞かれる。今回古くからじゃおクラブにいた者の責任として 30 年前の記録を調べてみたので 2、3 回に分けて報告しようと思う。

地域じゃおの第 1 号としてじゃお湘南が創設されたのは 1995 年 4 月、じゃお農園が作られたのは翌年の 4 月だった。その時代は、パソコンはまず使われておらず、会員への行事の連絡手段は「電話」と「郵送」だけだった。会員数も少なかったので会員同士面識があるのが普通であった。会員は 60 年代前半の方が多く会社を定年退職して地域に帰ってきた人が殆どだった。当時の社会情勢はと言うと 1995 年は阪神淡路大震災、地下鉄サリン事件、政治の面では自・社・さきがけの連携で「村山内閣」が誕生した年である。1996 年では東京三菱メガバンクの誕生、O-157 集団食中毒の発生、海外ではペルー日本大使館ゲリラ占拠事件など事件が多く激動の時代であった。

じゃお湘南発足会は 1995 年 4 月 23 日（日）藤沢産業センター6F で行われ、発足会を契機に湘南会員数は 14 名から 28 名に倍増した。当日、永田農園の永田誠園主からお祝いとはげましの言葉を頂いた。永田誠さんとはこの時初めてお会いしたのである。

一方同じ頃、藤沢市御所見地区で永田誠さんを中心に露地野菜・施設野菜・花き・養豚・酪農を営む若い農業者 12 人が連携し FAPA 湘南（Farmers' Philanthropy Associates：農民の社会貢献仲間）を結成した。これは都市住民との交流の中で循環型・環境保全型農業を実践して社会貢献しようとする素晴らしい試みであり、地域との交流と地域貢献を目指すじゃお湘南の理念と相通じるものがあった。

その年の 6 月永田誠さんと世話役の杉村さんと島村の三人で昼食を取りながら体験農業・援農の方法など今後の連携の進め方について話し合い、7 月に入会した農業に詳しい故米木さんに初代農園長をお願いして翌年 1996 年 4 月 17 日に「じゃお農園」を開園したのである。

開園当時のメンバーは 10 名足らずで（写真上：最右側は永田園主）午前中は 200 坪の土地で自分達の農作業を行い午後は永田さんや近隣農家の畑のお手伝いをした。

永田園主からは農業の基本、畝つくり、マルチ掛け、種植え、耕運機の使い方（写真下）についてご指導を受け、園主のお母さんには、商品としての野菜の取扱い、雑草取り、その他軽作業について適切で効率的なやりかたを教わったものである。

紙面の都合上、開園当時の自主農園の作業と援農の内容については次号のじゃおニュースで紹介する。

（湘南　島村　忠男　記・写真提供　永田農園）

じゃおベイサイド

6/28 に第 6 回ベイサイド、ワインの会が開催されました

今回のテーマは 5/19～21 に広島で開催された G7 サミットにちなみ、“G7 各国の今どきワイン事情”です。さてどんなワインとつまみが戴けるのでしょうか？それでは試飲といたしましょう！

1．**商品名**　セミヨンスパークリング
　産地　日本　広島　**収穫年**　2022 年
　品種　セミヨン
　蔵元　ヴィノーブルヴィンヤード
　シャンパーニュ同様の製法で丁寧に醸造。海外コンクール受賞

2．**商品名**　ニュープレーヤーインタウン
　産地　イタリア　ロマーニャ　**収穫年**　2021 年
　品種　トレッピアーノモデネーゼ
　蔵元　リオロッカ
　地元の有機ぶどうを自然発酵で醸造し、オリ抜きせずにボトル詰めした微発泡のナチュラルワイン

3．**商品名**　キング・コング
　産地　フランス　ロワール地方　**収穫年**　2021 年
　品種　ガメイ、ムロン・ド・ブルゴーニュ、ソービニヨン・ブラン
　蔵元　ル・レザン・ア・プリュム
　ビオロジック農法のぶどうを SO_2 無添加で醸造。ビュバビリテ（スルスルと飲みやすい）ワイン

4．**商品名**　コッポラ・ダイヤモンドセレクション・ジンファンデル
　産地　アメリカ　カルフォルニア州　**収穫年**　2021 年
　品種　ジンファンデル、プティット・シラー　**蔵元**　コッポラ・ワイナリー
　映画「ゴッド・ファーザー」の監督フランシス・フォード・コッポラのワイナリー。カルフォルニアを代表する品種ジンファンデルを使用。

以上のワインと共に、

① **倉崎水産の花瑠＆花星（おいる＆おいすたー）**
　広島産のカキを香ばしく焼き、調味後オイルに漬け込んだ濃厚な味わい

② **ドイツのマリボーチーズ**
　モチモチした食感とミルクの味わいが楽しめるハードタイプのチーズ

③ **イギリスのスティルトン**
　世界三大ブルーチーズのひとつ。エリザベス女王の大好物としても有名

④ **神戸屋　輝き生食パン**
　生地に水分をたっぷり含ませています。カナダの小麦を使用

G7 にちなみ、**日本**のスパークリングワイン、**イタリア**と**フランス**の白ワイン、**アメリカ**の赤ワイン、広島のかきのオイル漬け、**ドイツ**と**イギリス**のチーズ、**カナダ**小麦を使った食パンを提供しました。さて、皆さん楽しめた G7 サミットだったでしょうか？　（真島　記・諏訪　写真）

じゃお多摩・田園

田沼武能写真展に酔う＆恵比寿界隈スナップ～グラファーズ～

7 月 4 日はグラファーズの撮影会で恵比寿ガーデンプレイスでのスナップ撮影に行ってきました。恵比寿ガーデンプレイスは、活気と美しさが溢れる場所で広々とした広場や美しい建物が、写真の被写体として最適でした。建物のデザインや彩り豊かな植物たちが被写体としての特徴でした。

本来であればグラファーズの仲間たちと一緒に写真を撮ることは、楽しさと協力の精神を醸し出す絶好の機会なのですが、今回も各々撮影に関しては真剣というか結構寡黙で、あちらこちらでポージングや構図を考えながら、じっくり撮影するという時間を過ごしていたように思えました。

スナップ撮影では、一瞬の瞬間を捉えることが重要と言われていますが、当日の恵比寿ガーデンプレイスは残念ながら訪れる人々もそれほど多くはなく、街の営みを感じるほどでもありませんでしたので、その一瞬がなかなか訪れなかったように感じました。事前にイメージしていた人々の笑顔や表情、自然の美しさを写し撮るのはまた次の機会にということになったようです。

そのあとには今回の本来の目的でありました東京都写真美術館で開催されていました写真家の田沼武能さんの「人間賛歌」写真展に行ってきました。展示されている写真は、人々の生活や営みを描きながら、彼らの内面や情熱を浮かび上がらせています。田沼さんの独特な視点と技術を感じながら、まるでその場にいるような臨場感を味わえるものでした。特に印象的だったのは、写真からにじみ出る人々の生き生きとした表情や、身体の動きです。彼らの喜びや悲しみ、努力や情熱が写真から伝わってきて、心に深い共感を覚えました。

光と影の使い方が巧みで、繊細な表現力があります。一枚の写真に込められたメッセージやストーリーに、見る者を引き込んでくれます。展示会場の雰囲気もとても落ち着いており、作品と一体となって鑑賞することができました。田沼さんの写真が持つ力強さや美しさに触れながら、日常の中にある人々の尊さや喜びを再確認できたと思います。

そのあとは幹事さんのご努力で予約していただいていたジョエル・ロブションは手違いで入店せず、恵比寿駅 10 分ほどの中華料理店で暑気払いを兼ねた恒例の楽しい反省を行いました。写真談義はもとより健康情報、社会情勢、近況などの情報交換を含め、無事解散となりました。本当に楽しい一日でした。

（多摩・田園　千葉　敏行　記・竹内　純一　写真）

大人の社会科見学～衆議院参観～

国会参観は修学旅行など学校行事の定番コースです。多摩・田園の「仲間と街歩き」では「大人の社会科見学」と銘打って、7 月 20 日（木）に衆議院を見学しました。参加者は総勢 22 名。多摩・田園だけではなく、湘南・県央・ベイサイドからの参加もありました。

今回の参観は、比例代表東京選挙区選出、立憲民主党の伊藤俊輔議員のご紹介で実現しました。議員紹介なので、一般の申し込みでは立ち入ることができない場所も見学できました。

一行が最初に向かったのは、衆議院第二議員会館にある伊藤議員の事務所です。まず、伊藤議員にお目にかかり、国政の課題などを伺いました。11 階からは真正面に見える国会議事堂や官庁街などが見えます。ダイナミックな首都東京の眺望を味わいました。

小一時間、事務所で過ごした後、国会議事堂へ向かいます。秘書の方々が、参観コースや昼食会場の混雑具合を調べて、細やかに時間調整してくださったのが印象的でした。議員紹介の場合、身分証明書による本人確認や、手荷物検査は不要です。衆議院第二議員会館と国会議事堂は地下道でつながっていますので 5 分もあれば着いてしまいます。

議員登院口には、衆院議員が登院していることを示す「登院盤」があります。今はタッチパネルですが、その昔は木札であり、ボタン式の時代を経てタッチパネル式になったそうです。

続いて、私たちは、2 階にある天皇陛下の御休所（ごきゅうしょ）を参観しました。総檜造の本漆塗り、折上格天井（おりあげごうてんじょう）など建築当時の粋を集めたものでした。議事堂の建物全体は日本全国から取り寄せた大理石や木彫りの装飾でできています。本会議場では、御座所、議長席、速記者席、総理大臣席、大臣席、各会派の席順や記者席などについて説明頂きました。

今回の参観では通常は立ち入ることのできない部屋も見学しました。まずは、第一委員会室です。予算委員会でおなじみの部屋ですね。テレビで見覚えのあるレイアウトでした。議長応接室には代々議長の肖像画が掲げられていました。

その後、1 階の中央広間を見学しました。中央広間は国会議事堂の象徴であるピラミッド型の塔の真下にあり、中央入口から入ってすぐの大広間です。伊藤議員からは「初登院の時は中央入口から入り、当選証書と引き換えに議員バッジをもらうんですよ」との説明がありました。感慨深い場所なんですね。

参観を終えた後、通常は入ることができない衆議院議員食堂で、名物の「国会弁当」を味わいました。議員食堂は、高い天井やシャンデリアに飾られた重厚な空間で、国会議員が多忙な中でも短時間で食事できるように設けられたそうです。（記念写真の前列右から 4 人目が伊藤議員）

参加者の皆さんに感想を聞いたところ「最後まで楽しく過ごせました」「修学旅行の気分を味わいました」などの声があり、好評の内に終えることができたようです。皆さん、お疲れ様でした。

（多摩・田園　竹内　純一　記・写真　伊藤俊輔議員事務所）